

# An die Freude

佐久第九演奏会ニュース No39 2014「第九」スタート号 H26.8.29

## 特別寄稿

### 響きの溶け合った合唱づくり

指揮者 藤本淳也

本年も、皆さんと共演する機会を頂きまして、心から感謝申し上げます。毎年演奏する中で、新たな目標に向かわれている合唱団のお姿からは頼もしさを感じておりましたし、新たなメンバーを迎えて年ごとに違った歌声を奏でていたのも印象的でした。さらに、前プログラムを含めて、今までに合唱の皆さんは荘厳さ、しなやかさ、華やかさといった表現をオーケストラと共に作られてきたと思います。さて、今年もまた新たな団員さんをお迎えしての練習が始まるわけですが、今年は響きの溶け合った合唱作りをしたいと思います。

回演奏する二曲のドラマの移り変わり、そしてその時々の心理的なものを第一に考え、共有しながら、これに最もふさわしいサウンドを皆さんと創り上げていきたいと思います。

今年は、皆さんの中には既に歌われた経験がある方もいらっしゃるのではと思われませんが、ヴェルディ作曲「オブリッ」の中から、イタリア第二の国歌とも言われている部分を選びました。

この曲は、譜読みや歌う音域などはそれ程苦労されることはないかと思えますが、合唱にとつて最も難しい演奏の一つであるユニソンの表現が沢山あります。ワーグナーがこだわらるドラマを作るためにも、基本となるユニソンのサウンド、すなわちブレンドされた響きを大切にしながら、コンサートホールにいらしたお客さんが歓喜されるような音楽劇を奏でたいと存じます。

皆さん堂々と表現されてきました。毎年代わるメンバー構成の中で十分に溶け合ったサウンドを作るのは、特にピアノの部分において難しく、ご苦労も多かったのではないのでしょうか。さらに男性、女性コーラス間のコントラストも、もっと効果的表現や響きの面でのさらなる可能性があるように感じてきました。

ところで、かのワーグナーは「音楽はドラマの模範」もへたでなければならぬと申しておられます。意外に思われるかもしれませんが、ドラマが目的であり音楽表現はその手段であることを考える時、今

少ない練習時間ですが、一緒に頑張りましょう！



■プロフィール  
幼少よりヴァイオリンを北島智仁氏に、ピアノを竹村和子女史に師事。  
東京藝術大学指揮科卒業。安宅賞受賞。同大学院修士課程修了。これまで指揮を佐藤功太郎氏、F.トラーヴィス氏、坂本和彦氏に師事。またオペラ制作の現場では星出豊氏はじめ、故若杉弘氏からの薫陶を受ける。  
一九九五年五月チェコで行われた「ブラハの春」国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。  
二〇〇一年九月から一年間、ロータリー財団奨学生としてヘルリンに留学。ヘルリン芸術大学 Peter Wiesner 氏のオペラ実習クラスでイタリアオペラを学ぶ。またベルリン国立歌劇場にてタニエル・パレンボイム氏のもと、モーツァルトのオペラを学ぶ。これまでに、群馬交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団をそれぞれ指揮。特に東野和士氏のアシスタントを務める。二〇〇〇年八月には、国際交流基金派遣員としてフィリピン・セブ島にてセブ・ユースシンフォニーオーケストラ (CYSO) を指揮。また韓国で行われた The 6th Arts Festival Dimension 2008 に J.P Ensemble Interactive TOKIO を指揮。  
近年では、都内オペラ団体の公演に音楽スタッフとして参加すると共に、各地のオペラ団体、オーケストラや合唱団の指導、演奏も行っている。とりわけ、長野県内ではこれまで信州大学交響楽団、長野フィル、長野市交響楽団、長野楽友協会、カノラータ・オーケストラ、佐久室内オーケストラ、志音会オーケストラ、アンサンブルNOVAと共演。また二〇〇九年には東京室内歌劇場ハンガリー、ブルガリア公演に参加。二〇一〇年一〇月には、Ensemble Interactive TOKIO のヨーロッパ公演に同行し、スロヴェニア、クロアチアでの四公演を指揮。武満徹「カトリーナII」をはじめとする室内楽作品を演奏。  
昨年三月、秋田アトリオホールにおけるアンサンブルフェスタ2013にてイェーベル「室内小協奏曲 アルト・サクソフォーンと二の楽器のための」、フィリャ他を、本年五月には長野市でピゼー作曲オペラ「カルメン」音楽鑑賞教室（一八公演）を指揮。また都響第九の合唱指揮者として昨年に引き続き二期会合唱団をまとめる。吹奏楽の指導、審査員も近年担当している。  
趣味は登山。

東京室内歌劇場指揮者  
社団法人日本演奏連盟会員  
昭和音楽大学講師

さあ 一緒に！